



平成十四年十月二十六日発行  
 編集 社寺建造物美術協議会  
 発行人 小西 陳雄  
 〒321-1431 栃木県日光市山内二三八五  
 (株)小西美術工藝社 内  
 TEL (〇二八八) 五四一―一九八  
 FAX (〇二八八) 五四一―一九六

## 西域の装飾細部について

(財)文化財建造物保存技術協会

理事長 関口 欣也

このたび社寺建造物美術協議会の会報「すいかずら」十号発行を迎えたことを心よりお慶び申し上げます。貴会が伝統建築の金工・彩色・漆工面を研鑽されますことは、建築装飾の高度の品質を保証するもので、極めて重要な意義があります。

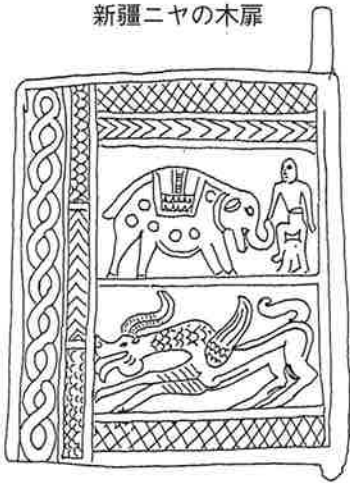
私は今年の初夏に十二日ほど中国の新疆省に旅行して、素朴の中に建築装飾がもつ大きな意味に改めて感嘆しました。

大体この辺の民家は昔から平頭土屋というように泥煉瓦の壁体と土葺の陸屋根が主体

ですが、入口の木扉は八双金物や格子打の饅頭形金物の流れで飾られ、その上方の枠を鋸歯文の煉瓦積いわゆるコーニスとし、はっと思うほどの柱も上に刳形肘木やコーニスをあげていました。

一方、近世の木造の多柱式モスクでは、柱の脚部・柱身・柱頭に刳形をつけ彩色を施し、上部の根天井廻りには文様彩色だけでなく、狭

新疆ニヤの木扉



い帯状の面の風景画など西アジアのモスクにはみられないものでした。

そして、伝統形式の豊かな新しい町屋では坐式生活の広間に赤を地とした絨毯を敷き青緑の腰壁上に油彩らしい風景壁画が描れ、砂漠に囲まれた環境の中で人間の色彩への懐けが窺われました。

挿図は西域南道ニヤ遺跡から出土した四世紀ころの木の軸摺の扉で、縁取の中に上に象、下に有翼の竜?を表し、デザイン豊かです。

### 現状の打開に期待

社団法人全国国宝重要

文化財保有者連盟

事務局長 後藤 佐雅夫

「すいかずら」十号を発行されますこと、誠におめでとうござります。会報を続けて発行することは編集者にとっては大変な苦勞が伴います。その原因の一つに会員からの投稿がないことでもあります。

会が繁栄していくためには、会員全員が一つの目標を重ねていくこと、円滑に仕事を受注出来ることでもあります。会員には国の選定保存技術保持者に認定されている川面稜一氏、森本安之助氏、大谷秀一氏をはじめ文化財保存修理には欠かせない方ばかりの集団であります。しかし、

今の事情は、この協議会を運営し、技術を残していくための明るい材料はなにもありません。ゼネコンに安くたかれ、模造品がまかり通る業界では、いくら優秀な技術保持者であっても生活出来なければ技術保存がなりたないのではありません。

文化財に本当の物を残すた

めには、このことを解決し、後継者の育成、材料の確保等をも考えていかなければなりません。技術者が無くなれば文化財の保存も出来ないということを関係者はもつと自覚していただかねばなりません。これを踏まえ今後、貴協議会がますます発展されることを祈念します。

### 道具の話 ぬしや包丁

うるし職人が弟子入りすると先輩の親方から受けとるのが所謂ぬしや包丁。巾約一寸(三センチ強)、刃渡り約五寸五分(十八・五センチ)の小刀である。親方に教わり自分で刀の柄と鞘を作り、刃を柄に差し込んで固定し、研石で研ぐ。切れるものになるまでが大変だ。とに角、刃物研ぎも勉強の始まり。次に、うるしを取り分ける木篋、うるしを色々と練り合わせる木篋、付けもの(漆下地を付ける)の木篋等、栓の柾目材を使い篋削りの仕事が一と通り出来るまでには一年は掛る。

